

5 部門別会計

法人の中には、水稻、大豆、飼料作物、野菜など多品目の栽培、および加工、販売といった農産物の生産以外の事業を行うなど、一経営体で多くの部門を設けている場合があります。

法人全体の経営成績や財政状況等を把握するには、申告に用いる損益計算書や貸借対照表等で十分ですが、経営全体の損益計算書からは、それぞれの部門について、どの部門が自社の収益に貢献しているのか、どの部門が足を引っ張っているのかは分かりません。

「部門別会計」とは、例えば水稻と野菜の部門がある場合、それぞれについて損益計算書を作成することです。つまり、水稻と野菜での儲けが区別して分かるようになるのです。

会計ソフトを用いて簿記記帳を行っている場合は、部門別会計が行えるようにプログラムされていますので、比較的簡単に導入することができます。

部門別経理を導入するポイントとしては、

- ① 損益計算書のみの導入とする
- ② 作業日誌、運転日誌等を整備し、労務費がどの部門に因るものか分かるようにしておく
- ③ 簿記記帳の際に、部門の明確なものはその部門に、不明確のものは共通部門に振り分けておく
- ④ 共通部門の費用については、栽培面積、売上高、機械使用時間等の基準を設けて按分する

の4点が挙げられます。

部門別会計が出来れば、先ほど述べた損益分岐点分析を部門ごとに行うことが可能になります。これにより、各部門の強みや弱点を見つけることができ、販売価格や販路の見直し、生産コストや人件費の見直しなど、次取るべき対策が見えてきます。